

○協議事項

(1) ブルーカーボンの吸収量について

①国の温室効果ガス排出・吸収量（インベントリ）

- ・ブルーカーボンとしてマングローブ（2,300 t）が初計上
「塩性湿地・干潟」「海草（一部）」⇔「海草・海藻藻場」
- ・農水省「みどりの食料システム戦略工程表」インベントリ化の推進
農林水産研究推進事業委託プロジェクト研究「二酸化炭素吸収量の全国評価」

②北海道における吸収量等について

北海道地球温暖化対策推進計画（ゼロカーボン北海道推進計画）

- ・国のインベントリと道が算定する吸収量と整合をとる必要性
- ・プロジェクト研究で算定される道内での吸収量の位置づけ
- ・天然藻場と海藻養殖、漁場造成や水産多面的機能事業による吸収量の評価
- ・計画等に盛り込む吸収量とクレジット化できる吸収量の違い
- ・道内の吸収量（すう勢を含む）を算定するために必要なデータや計測技術

(2) 道内における取組の推進について

①民間企業等との連携

- ・Jブルークレジットの活用
クレジット化に向けた道のモデル事業（R5 実施の雑海藻駆除・養殖）
Jブルークレジットによる漁業者のベネフィット
（費用対効果、簡便な吸収量算定手法、申請方法等）
- ・民間企業等との協働の重要性

②海藻養殖拡大の可能性

- ・北海道の優位性
- ・食用以外の活用